

目的 洗たく中に衣類から除去された汚れの、同浴中の繊維製品への再吸着について、次の3点について検討する。①各種繊維組成の白布への再汚染性 ②洗たく液の3回までのくり返し利用の再汚染性に及ぼす影響 ③着用・洗たく17サイクルまでの累積汚染

方法 試料：着用実験用としてスリッパ2種およびシャツ、再汚染用白布として綿金中、ナイロンタフタ、ポリエステルタフタおよび市販のナイロンスリッパ2種、綿シャツ、ワイシャツの身生地（ポリエステル65：綿35）。着用方法：スリッパ2日間、シャツ1日間、これを17週くりかえす。洗たく：月星粉石けんおよびLAS 20%を含む標準配合合成洗剤、濃度0.2%、温度30℃、浴比1:36。測定項目：460nm 分光反射率および全光反射率、濁度、活性分。

結果 着用したスリッパ、シャツの白度変化については、従来の研究成果と同様の結果であった。洗たく液からの白布への再汚染（1回ごと）については、黄変のひどいスリッパ・シャツといっしょに洗った場合ほど、白布への再汚染が大きいこと、また、洗たく中の汚れは、すでに汚れが累積した布へよりも、新しい布に好んでつく傾向があることなど、興味ある結果を得た。洗たく液からの白布への累積再汚染については、綿より、ナイロン、ポリエステルの合成繊維の方が大きく、同じ繊維組成でも、市販品の場合は、加エ・仕上げが異なるので、それが再汚染性に大きく影響しているように思われた。